

学校番号(13) 豊橋市立(牟呂小)学校
平成29年度 学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

平成30年2月15日作成

中期目標	重点努力目標(評価項目)	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
(一)確かな解決的な学習による育成	基礎基本を基盤とし、問題解決的な学習による「深く考える力」の育成	B	B	市教委研究委嘱「生き方教育」の実践を通して、子どもたちが主体的に考え行動できるようになってきた。子どもたちの学習の方向性が明らかになったので、今後、研究の内容をより深めていきたい。	B	子どもが落ち着いている。話し合いの雰囲気も良好で、学習できる準備ができている。校区として、ボランティアを募り、子どもの学習活動の一助として、資料室の資料説明書きを検討中である。	「わかる・できる」授業作りの基本として、本年度、「板書計画」の研修を行った。引き続き、事前の教材研究と板書計画については取り組んでいく必要がある。 そして、「生き方教育」による4つの基礎的・汎用的能力を育てる学習と、問題解決的な学習を組み合わせた授業の展開が課題となる。
育る思いと育る心	「生活の心づかい」と「豊かな心」の育成	B	B	あいさつを返すことにはできているが、自発的にあいさつするにはまだまだ課題が残っている。行事では、個々としては取り組んでいるが、集団としては意識の希薄さが感じられた。「道徳」の授業は、単発が多く、積み上げを意識した指導がまだまだ十分とはいえない。	C	寒さ、インフルエンザの流行等、時期的なものもあるが、最近「あいさつ」の元気がない。歌声は素晴らしいので、校区全体で「あいさつ」をスローガンに、学校と家庭が協力して取り組んでほしい。「あいさつ」は道徳の教科化もあり、家庭への啓発も大切になる。	あいさつをコミュニケーションの第一歩とし、今一度、教職員からの見直しを図りたい。同時に、「あいさつ運動」等を委員会活動を積極的に動かし、取り組んでいきたい。また、異学年交流を通して、タテのつながりを強めていきたい。 「道徳」では、評価検討部会を立ち上げ、毎時の振り返りカードに教師の励ましの朱書きを入れることを徹底し、蓄積できるようなシステムを検討していきたい。
育る思いと育る心	「生活の心づかい」と「豊かな心」の育成	B	B	委員会活動で、積極的に体育倉庫の遊具を貸し出し、外遊びの奨励をした。その結果、外で遊ぶ児童が昨年より多く見られた。また部活動では、目標達成に向け、体力・技術の向上を意識し、工夫した練習ができた。	B	体育用具や遊具の充実も大切。また、整備不良で起こる怪我や事故等にも十分に対処したい。校区でもバックアップします。不登校や若い保護者からの苦情等、教員がノイローゼにならないよう、外部機関の活用等、全職員で継続した対応をしてもらいたい。	本年度同様に、継続して子どもの外遊びができるように、体育主任や児童委員会を中心に魅力ある企画や体育活動を計画・立案していく。また、部活動についても、指導内容の充実が図れるように、部活動推進委員会を中心に計画し実行していきたい。 生徒指導の基本は、共通理解のもとに職員一丸となって取り組むことを再確認していく。また、学校全体で学級担任をしている職員、フオー体制をきちんと確立しておく。
育る思いと育る心	「生活の心づかい」と「豊かな心」の育成	A	A	子どもに関する職員間の情報共有が良好で、市教育相談員やスクールカウンセラーの有効活用もスムーズにできていた。	A		
育る思いと育る心	「生活の心づかい」と「豊かな心」の育成	B	B	防災危機管理課や校区自治会と協力して、防災マップを作り、各家庭に配布した。マップ作りを通して、子どもや家庭が避難について、考え直すよききっかけとなった。アンケートや面談等を通じて、児童把握に努めることができた。その結果、子どもの気持ちに寄り添う指導を推進することができた。	B	乗年からは、訓練のための訓練から実定のもとでの訓練に段階を上げて取り組む予定。今年は、子どもの手で「防災マップ」を作成した。これを機に、どのように「活用するか」を家でも話し合いができることの良い。「いじめ」に関しては、「子ども把握」に努め、小さなサインを見逃さない努力を続けてもらいたい。	今年は、6年生の児童を中心に防災マップを作成した。しかし、1～5年生の児童がそれを活用したり、防災について考えたりする機会がとれなかった。校区合同防災訓練などの機会を通して、防災について、全校体制で見つめ直すことができるように検討していきたい。 異学年交流のさらなる活性化を仲良しタイムを軸にして進める必要がある。
育る思いと育る心	「生活の心づかい」と「豊かな心」の育成	A	A	運動会に合わせたラジオ体操の研修や「授業のつくり方」の研修等を行った。経験や実践を踏まえ、効果的であった。管理職の常日頃からの声かけや教室の様子等の観察により、助言や支援ができていた。また、話し易く、トラブル等の対応についてもよくできていた。	A	教員の不祥事が相次ぐ中、子どもと教師との信頼関係をきちんと確立してほしい。若い教師も多くて、未熟さばかりが目立つようでは校区・家庭からの不信感が増すばかりである。経験豊かな教員からの「教え」も、まずは、謙虚な気持ちから。今後も全職員一丸となって対処していただきたい。	現職研修が不定期な時があったので、計画的かつ継続的な取り組みをすることで、より一層の学習効果を期待したい。また、若手同士の研修を積極的に行うことで、若手教師の力量向上を図る。悩みや不安の緩和、解消も期待できるとともに、仲間とのより良い関係づくりを深めることが期待できると考える。職員一丸となって、学校を盛り上げるように、互いが、話を聞く学ぶ姿勢を高めていきたいと思っている。
育る思いと育る心	「生活の心づかい」と「豊かな心」の育成	A	A	管理職の積極的な声かけや話題提供による話しやすい職員室づくりに努める。	A		

【自己評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない】